まむら

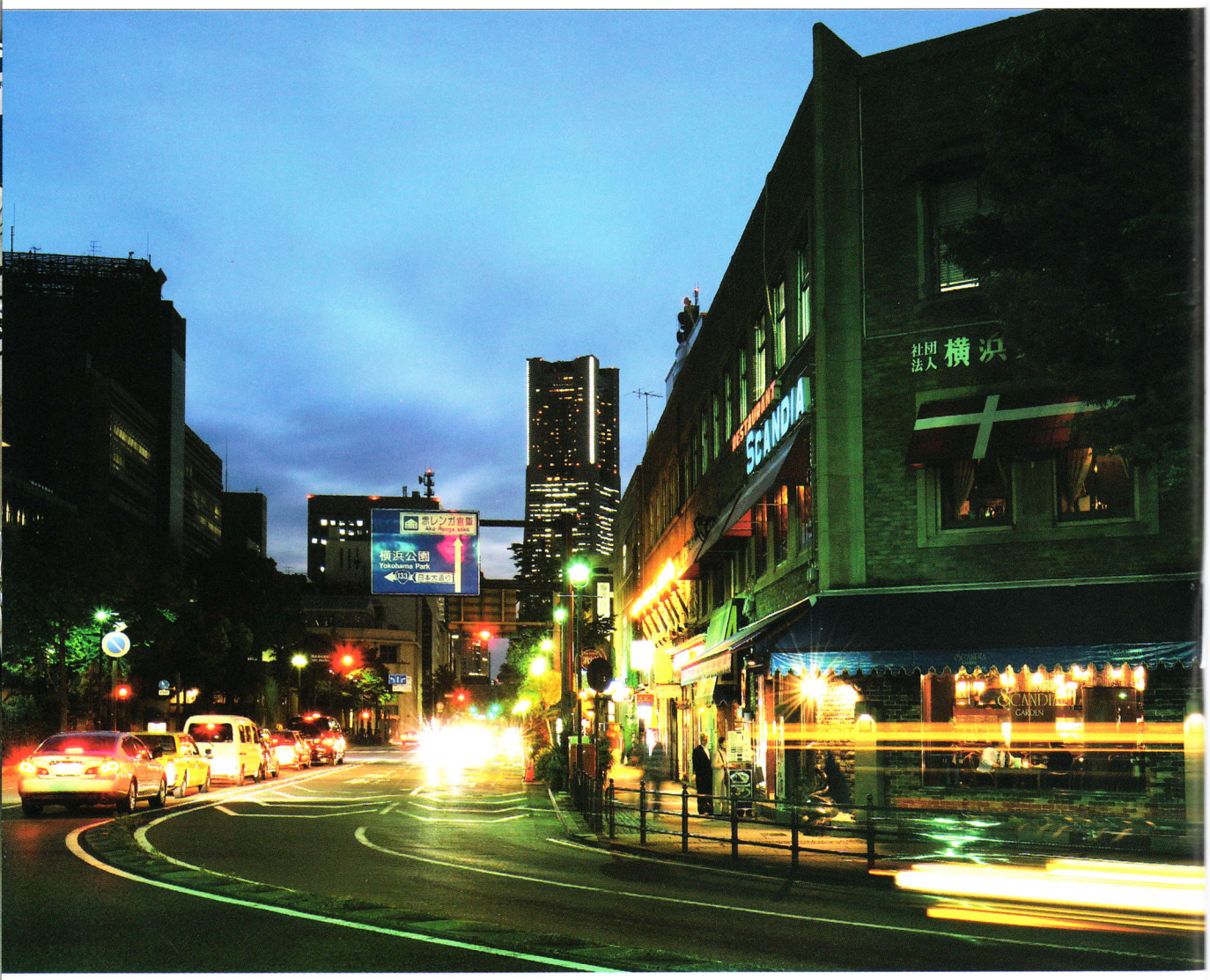
2009年5月発行（季刊誌）
自治会町内会情報誌

104

グラビア　高齢者の健康づくり―ころからげんは心も体も元気になる
― 宮城県仙台市太白区・めだかの学校～ほか ―

ルポ　友情を育む心のこもった交流で地元も来訪者も元気に！
― 岩手県遠野市宮代自治会～ほか ―

論文　町内会・自治会論 / 私のコミュニティ論



本誌は、宝くじの普及宣伝事業として作成されたものです。

ルポ1

友情を育む心のこもった交流で地元も来訪者も元気に！

岩手県遠野市　宮代自治会

早くから外部にも目を向けた農村集落・宮代

遠野市中心部の北西、標高798メートルの高清水山や756メートルの天ケ森が連なる高原の裾野に沿って広がる宮代（みやしろ）集落。北風をさえぎる背後の山にはりんごなどの果樹畑、充分な日照を確保してくれる南側の平地には田園風景が広がり、53世帯、約200人が暮らす。専業農家が2軒に非農家が10軒ほど、そのほかのほとんどが兼業農家という地域である。

田舎はよそ者に対して閉鎖的であるとよく聞くが、遠野、特にこの宮代地区は決してそうとは限らない。もともとは4月の川原の野焼きから始まって、花見、5月のさなぶり、9月の元八幡宮例大祭、そして毎月の地域の清掃などと、四季折々の行事とともに1年を過ごしているのどかな集落なのだが、10年ほど前にはすでに自分たちを取り巻く生活環境の問題を察知し、「地域を元気にしたい」と有志の会を結成するなどしていた。そして、いち早く農業地帯という生活環境と豊かな自然環境を活かし、「来訪者からの労働力の提供」と「農家からの寝食の提供」の交換で成り立つ「遠野型ワーキングホリデー」や民泊などの受け入れに取り組む人が現れた。例大祭がまだにぎやかでなかったころ、道行く観光客に声をかけてまつりに誘い、その日自宅に泊めてしまうという「暴挙」に出る者もいた。それほどこの地域は外部のエネルギーにも目を向け、積極的に取り入れようとしていたのだ。

まつりのにぎわいも呼んだ大学生の受け入れ

宮代集落に新しい風が入り込んできたのは平成13年。「宮代自治会」として、東洋大学の学生を受け入れることになったのである。

グリーンツーリズム研究の第一人者といわれる青木辰司（しんじ）教授率いるゼミの学生が、宮代集落に入り、農村の活性化をテーマとしたフィールドスタディを行なう。その調査に基づいて集落に合わせた提案を行ない、その見返りとして宮代自治会は宿泊受け入れや滞在中の生活のサポートを提供するという、いわばギブアンドテイクのプロジェクトだった。期間は5年間。一行は、元八代自治会会長の佐々木僚平さんは感慨深げ。

10数年前まで、例大祭は地域の旦那衆いない。

大学生の受け入れでは得るものも多かったが、課題にも気づかされた。それ